

総合科学技術会議 議員

奥村

OKUMURA
Naoki

直樹

さんに伺いました

聞き手

安原 達
編集委員[writer] 駒崎 文男
[photo] 遠藤 宏総合科学技術会議において社会基盤プロジェクトチームの座長を務める
奥村直樹議員に社会基盤や土木技術についてお聞きする。2009年1月14日(水)
総合科学技術会議 奥村議員室安全が誇りとなる国を
目指して

——奥村議員は、総合科学技術会議において社会基盤プロジェクトチームの座長を務めておられますが、そこではどのようなことをされているのでしょうか。

奥村——総合科学技術会議は、内閣総理大臣、科学技術政策担当大臣のリーダーシップのもと、各省より一段高い立場から、総合的・基本的な科学技術政策の企画立案および総合調整を行うことを目的とした「重要政策に関する会議」の一つです。ここでは、科学技術基本計画として「人類の英知を生む」、「国力の源泉を創る」、「健康と安全を守る」という三つの大きな理念を掲げており、計画の実現

に向け、八つの「分野別推進戦略」を策定しています。そのなかに社会基盤プロジェクトがあります。社会基盤分野は、防災、治安、都市の再生、生活環境、国土の管理保全、交通輸送システムなど、まさに国民生活の基盤を支える分野です。技術的には非常に多岐にわたっており、現在、大学の先生や企業の方々、当該分野の専門家の方々に参加いただき、目標達成に向けてプロジェクトを進めているところです。

社会基盤プロジェクトでは、戦略重点科学技術として、「減災対策により世界一安全な国・日本を実現する」、「社会基盤の機能を適切に保持・再生し緊急課題に対応した社会を形成する」という二つの柱を挙げています。前者には、減災を目指した国土の監視・管理技術や、現場活動を支援し人命救助や被害拡大を阻止する新技術、後者には、大更新時代・少子高齢化社会に対応した社会資本・

国土の多様性を
前向きにとらえてほしい

——これまでの土木とのかかわりのなかで、脆弱なわが国の社会基盤形成に貢献した土木技術をどのようにご覧になっておられますか。

奥村——私は製鉄会社で、鉄を中心とした土木用の製品開発を統括していました。そのときに、土木が物理的なサイズの大きさと不均質の両立という難しい課題を克服されているということに感心しました。たとえば、新幹線は土質などがさまざまな条件の現場でも車両や線路などの設備がつけられて、高速運行が実現しています。しかも、それを長い間事故もなく運行しているというのは大変なことで、



奥村 直樹（おくむら・なおき）さん プロフィール

1945年島根県生まれ。1973年東京大学大学院博士課程（応用物理学）修了。研究者として新日本製鐵（株）入社。Imperial College（英）客員研究員。2005年新日本製鐵（株）代表取締役副社長、技術開発本部長。2007年1月より総合科学技術会議議員。

他の国にはなかなかできないことです。

ただ、土木の人は脆弱な国土だからもっと対策を打つ必要があるという論理を展開しがちです。しかし、そういう問題提起の仕方は国民に理解されにくいのではないのでしょうか。脆弱というのは、言い換えれば多様性です。日本は北から南に広がり、地政学的に同じところがありません。南で泳いで、北でスキーができる。そのうえ、周りが海で囲まれ、海域も広い。それだけバリエーションに富んでいる豊かな国なのですから、もう少し前向きにとらえる表現があってもいいと思うのです。そのなかで、きめ細かく地域の課題と向き合い解決していくことを考えてほしいと思います。

固有技術の深化と、 新たな技術の融合に期待

——最近では社会基盤整備や土木技術について正しく評価されていないと感じる土木技術者は多いと思います。今後の土木技術に対する期待やメッセージはありますか。

奥村——社会基盤プロジェクトチームでは、国民の安心・安全を守ることが大きなテーマになっており、土木技術が貢献できるところがまだまだあります。

重要なことは、ハードとともに使い方を含めたソフトです。確かに道路や橋をつくることは重要ですが、それが社会基盤と100%イコールでは

ありません。その橋をどのように使うのか。どのように使えば最も有効なのかということも提案できなくてはいけません。社会基盤は広い概念で、そこにはハードだけでなくソフトも入ります。新幹線が素晴らしいのは、車両やレールなどのハードだけでなく、あれだけの間隔で安全運行ができるシステムが素晴らしいからで、ハードとソフトを合わせたものがインフラだと思っております。

基本的な技術、固有の技術の深化については引き続き進めてほしいと思いますが、それ以外の萌芽技術をどう取り込み、目的達成に組み上げていくのか。いろいろな学会と接点をもって、技術を融合していくコーディネーション能力や、目的達成のための企画立案能力に期待したいと思っています。

安心・安全のための減災や防災の実現には、ソフトを含めたさまざまな技術の融合が必要です。そういったものをインテグレートした形で、国民にわかりやすく説明し、見せてくれると、われわれも納得できます。土木の世界ではPRについても規模の大きさを強調するように思います。一昨年、余部鉄橋が建て替えられるというので見に行ったのですが、理由を聞くと、着工から百年が経ち、寿命になったから立て替えると言っているのです。そのような説明では無味乾燥すぎます。たとえば、百年前の鉄橋と今度つくるコンクリート橋では、こんなに省資源で快適になりますというように説明してほしい。これからはそういった、国民が納得するPRも必要なのではないでしょうか。